

**生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻（博士前期課程）**  
**研究指導教員の決定と研究指導の方法**

**1. 研究指導教員の役割**

- 1) 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- 2) 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の学修・研究に必要なとなる授業科目の履修について指導を行う。
- 3) 研究指導教員は学生ごとに1名とし、必要な場合は副研究指導教員を設ける。

**2. 副研究指導教員の役割**

- 1) 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を補助的に行う。
- 2) 副研究指導教員は、上記に加え、研究指導教員の指導についての学生からの相談に応じ調整を行う。
- 3) 副研究指導教員を設ける場合は、学生ごとに1名または2名とする。

**3. 研究指導教員の決定プロセス**

- 1) 出願者は募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員の訪問や面談を行い、出願書類に指導を希望する教員を記載する。
- 2) 入学試験時の口頭試問において指導を希望する教員と希望理由を確認する。
- 3) 専攻教授会において合格者の希望に基づき研究指導教員を、併せて必要な場合は副研究指導教員を決定する。
- 4) 原則、入学までに指導教員を決定する。

**4. 研究指導の方法 ※1**

- 1) 研究計画の立案（1年次4月～7月）
  - ① 学生は、決定した研究課題に関して先行研究を整理し研究計画を立案する。
  - ② 研究指導教員は、学生の研究計画立案に際し、研究方法、文献の検索や読解方法等を指導する。
  - ③ 学生と研究指導教員は、協議のうえ研究指導計画書を作成し、研究科長へ提出する。
- 2) 研究の遂行（1年次7月～2年次1月）
  - ① 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。1年次では、主に予備的な実験や調査を行い研究方法の確立を図る。2年次では、確立した研究方法によりデータ収集・解析等を進め、その成果を修士論文としてまとめる。
  - ② 研究指導教員は、研究の進行を随時確認し、実験・調査等の手法やデータ解析の指導等、研究の進捗状況に応じた指導を行う。
- 3) 研究成果の中間発表（2年次9月）
  - ① 学生は、ここまでの成果と今後の予定について、専攻内の発表会で報告する。
  - ② 研究指導教員は、プレゼンテーション方法等について指導する。
- 4) 修士論文の作成（2年次10月～1月）
  - ① 学生は研究成果をもとに修士論文の作成を開始し、指導教員のもとで修士論文をまとめる。
  - ② 指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を

指導する。

5) 修士論文の提出・発表（2年次1～2月）

学生は修士論文を指定する期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

6) 研究指導報告書の提出（2年次2月）

研究指導教員は、研究指導報告書を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。